

## 1

## サンメッセ株式会社

	各社の考え方
<p>□ 算定を行う背景・目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当社は「印刷」を核に、創業来より環境に配慮する取り組みを積極的に進めてきた。当社独自の環境活動を「エココミュニケーション」と定義し、その活動の一環として、2011年より製品のLCAの取り組みをスタート。その中でも、CFPIに積極的に取り組み、お客様から高いご評価を得たことが大きな契機となって、製品の環境負荷低減や、GHGプロトコルによる組織のLCAに範囲を広げて取り組むこととなった。</li> <li>● Scope3算定の取り組みは、CDPヘレポーティング義務のない当社にとって、将来的に、当社独自の取り組みを見出すこと。そして、社会的な視点からはもちろんのこと、また、新たなビジネスにもたらすインパクトに繋がる要素と考え、積極開示することとした。客観的な視点から、新たにに取り組むべき方向性を考えるために推進している。</li> </ul>
<p>□ 算定結果の活用方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 算定結果の情報は、当社統合レポート、ならびに当社HP掲載を通じて、ステークホルダーへの公開を行っている。</li> <li>● 客観的な評価を受けるべく昨年度からCDPの自主回答にも活用。</li> <li>● マルチクライテリアによる評価により、更なる環境関連問題への取り組みを強化し、競合他社との差別化を図る方策の一つとして位置づけている。</li> </ul>
<p>□ 算定のメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全体の活動量としての物量や金額データとして収集することで、個品で偏りなどを無くした数値と見ることができると、製品負荷を紹介する際、より根拠を持った提案が可能となった。</li> <li>● 負荷の多いカテゴリと、少ないカテゴリを比較することで、費用対削減効果が見出せるようなコスト削減と、経年比較から分析を行うことで、今後の対応についての方向性を見出せる。</li> </ul>
<p>□ 社内の算定体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 算定プロセス全般に関わることを、ソリューション戦略推進室にてグリップ。</li> <li>● カテゴリ1は購買部、2,6は経理部、7は総務部、その他については、ISO担当、環境推進担当よりデータ収集した。</li> </ul>

## 2

## サンメッセ株式会社

	各社の考え方
<p>□ サプライチェーン排出量の削減に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 14カテゴリ(投資を除く)にわたり、算定を行った。例年通り、全体の70%がカテゴリ1に属している。そのカテゴリ1の中でも用紙が占める割合が、95%と最も多く、用紙に対する環境配慮が重要である。その用紙の環境負荷軽減のため、再生紙やFSC認証紙だけでなく、岐阜県の間伐材を、岐阜県の製紙会社で抄造し、岐阜県の印刷会社である当社で、印刷加工する「岐阜県産の間伐材ペーパー」の利用を促進をしている。</li> <li>● LCA日本フォーラムが主催する「組織のLCA研究会」に所属し、マルチクライテリアの観点からCO<sub>2</sub>だけでなく、NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>などの複合的な要因から森林資源の持続可能性について研究を進め、取り組むべき課題への理解を進めた。</li> </ul>
<p>□ サプライチェーン排出量算定の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現状、カテゴリ1の数値はサプライヤーからデータ収集することが困難なため、原単位を活用して算定した。しかし、この用紙の原単位は一項目しかないため、環境配慮製品を使用しても数値に反映されない。よって用紙における環境配慮をPRするには弱い部位がある。</li> <li>● カテゴリ4は、広域から資材調達を行っているため、CFPコミュニケーションプログラムの水なし印刷PCRのシナリオを採用。ただし、解釈によっては実際よりも移動距離が多く出ているとも想定され、今後はより算定精度を高めたい。</li> <li>● 外部委託(協力会社など)のデータは、データ収集が困難なことから、今回の算定には含まない。今後、当社側にて原単位を設定し、より精度を高めていくことを検討する。</li> </ul>
<p>□ その他(任意)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当社の環境活動全体について低炭素杯2017において優良賞を受賞。</li> </ul>

## 3

## サンメッセ株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 主要原材料・資材の調達量(重量、金額)	● 原単位DB※
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達金額	● 原単位DB※
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 燃料・電気・ガスのエネルギー使用量	● CFP基本・利用可能DB ● 原単位DB※
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 調達・委託・廃棄の各段階輸送をCFPコミュニケーション プログラムの水なし印刷による印刷物PCRのシナリオを 参考に推定トンキロを算定	● CFP基本・利用可能DB ● 燃料あたり原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種別排出量	● 原単位DB※
カテゴリ6「出張」	● 旅費・交通費支給額	● 原単位DB※
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 交通費支給額	● 原単位DB※
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● 非該当	
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 調達・委託・廃棄の各段階輸送をCFPコミュニケーション プログラムの水なし印刷による印刷物PCRのシナリオを 参考に推定トンキロを算定	● CFP基本・利用可能DB ● 燃料あたり原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 販売した製品のほとんどは完成品であるため、その後の加工はなしと考える。	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 紙製品の使用時の排出はゼロと考える。	
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● CFPコミュニケーションプログラムの水なし印刷による印刷物PCRのシナリオにもとづき、廃棄物量を算定	● CFP基本・利用可能DB
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● 非該当	
カテゴリ14「フランチャイズ」		
カテゴリ15「投資」	● 基本ガイドラインで規定される適用事業者に該当しないため、算定していない。	
「その他」	● オプションカテゴリのため算定していない。	

※正式名称「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベースVer.2.0」

# 4

# サンメッセ株式会社

## 算定結果

### サンメッセのSCOPE3

